

樋口一葉の墓



〔登録年月日〕昭和六一年三月三十一日  
〔種別〕史跡（墓・碑）  
〔名称〕樋口一葉の墓  
〔点数〕一基  
〔所有者等〕個人  
〔所在地等〕永福二―八―一（和田堀廟所内）

## 樋口一葉の墓

樋口一葉は明治五年（一八七二）、東京麹町（千代田区）の生れである。本名は奈津といい、東京府庁吏員樋口則義の次女である。

一葉は明治二五年（一八九二）頃から作品を発表しはじめ、明治二八年「にこりえ」「十三夜」「たけくらべ」などを相継いで著し、女流作家の第一人者となった。しかし、間もなく胸を病み、明治二九年（一八九八）一月、二四歳の若さで没している。遺骨は築地本願寺の樋口家墓地に埋葬された。この墓地が現在の地に移されたのは昭和初期のことである。

墓は近代風の家族墓で安山岩の角柱型、総高一六一cm、幅二七・三cm、四段の台石をともなっている。碑銘には一葉の父母兄弟にはじまり妹邦子の子女に及んでいるが、いずれも一葉のごく近い血縁関係にある人である。

墓石正面は枠取りして少し窪め、家紋（横木瓜）の下に「先祖代々の墓」と刻み、右側面、裏面、左側面の順に法名と死去の日付を記している。一葉（法名智相院釋妙葉信女）は右側面にあたっている。文化史上に輝く著名人の墓として重要である。

### 【文化財所在地】

